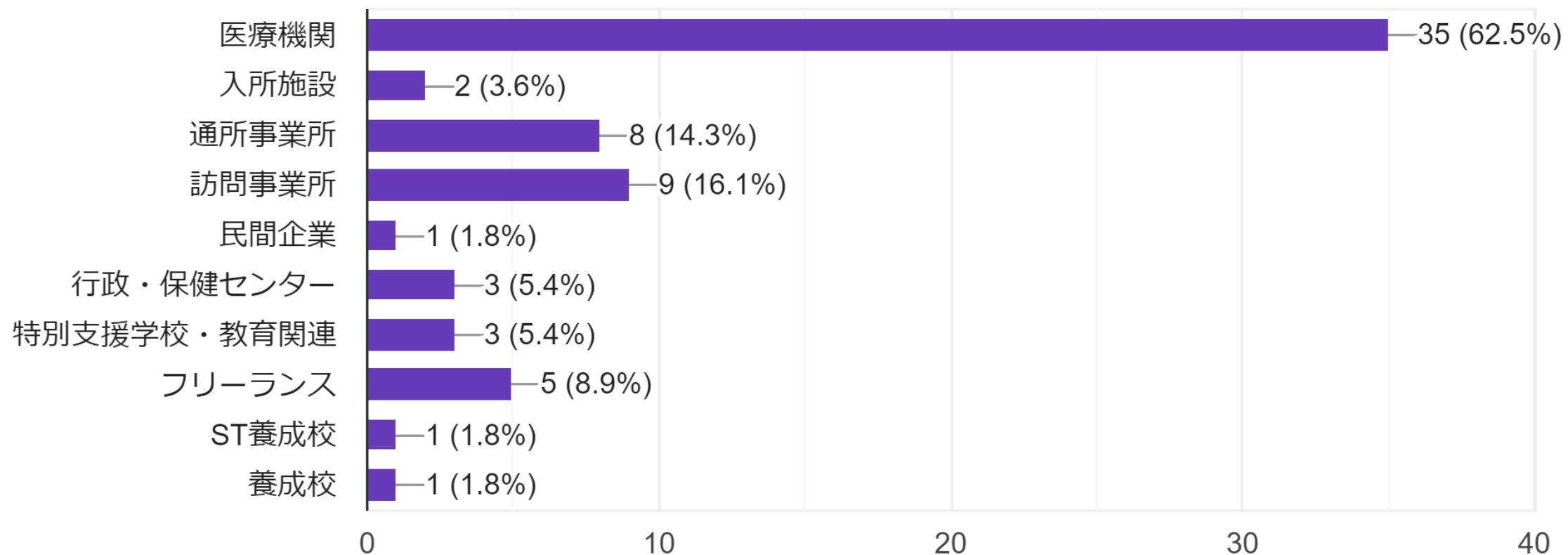


COVID-19 第2回アンケート (令和2年6月1日~6月10日実施)

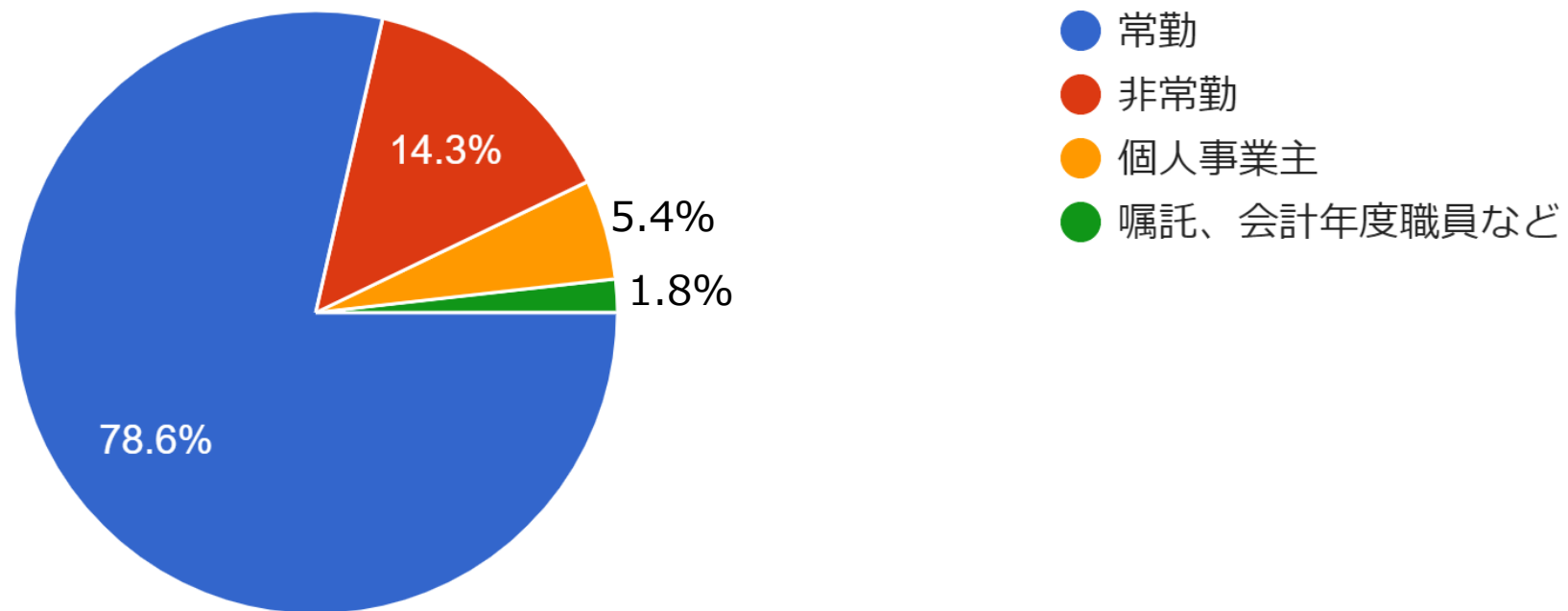
所属

56 件の回答



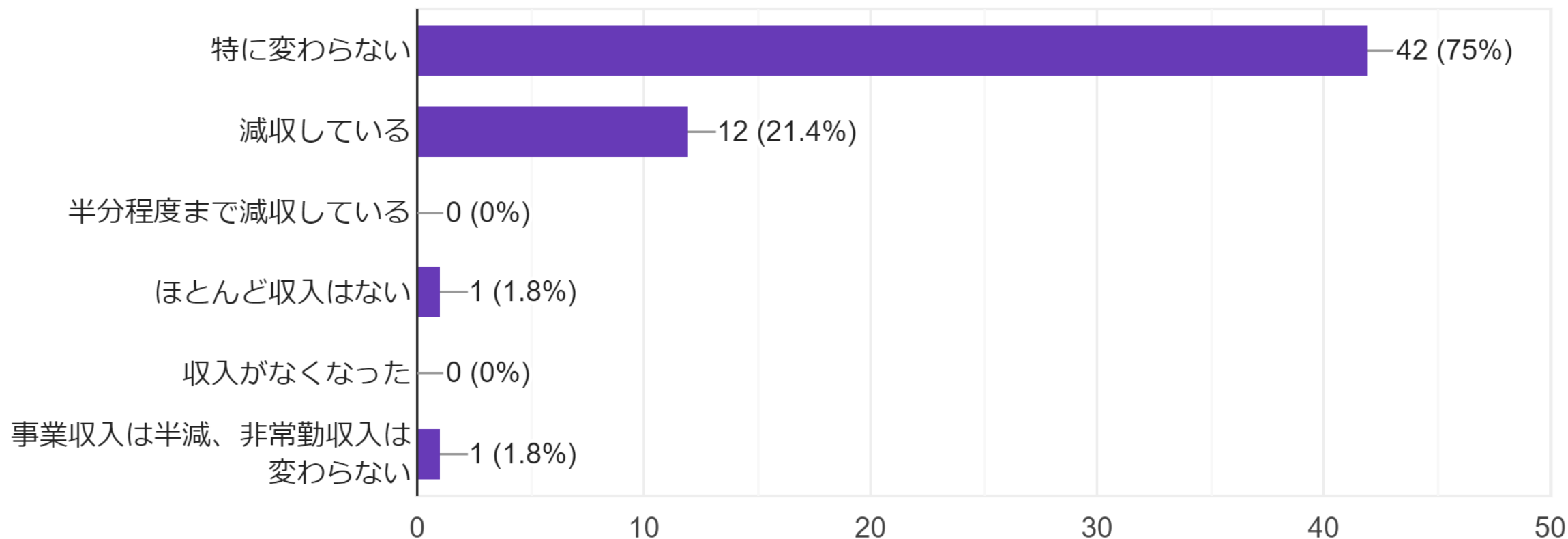
勤務形態

56 件の回答



収入について

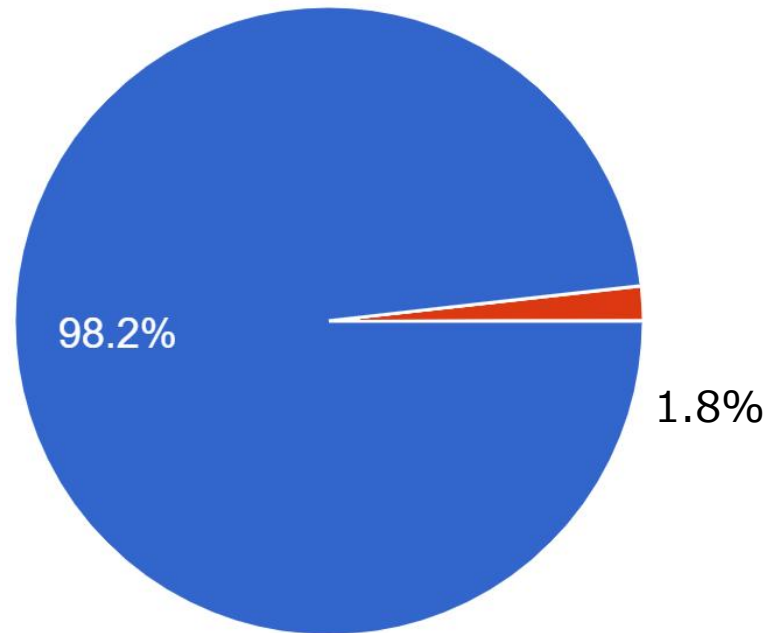
56 件の回答



収入に関しては、常勤で前回と変わりなし。
減収している方のほとんどはフリーランスの方。
「減収している」方の割合は大きく変わらずも、収入なしは0%（前回3.5%）

COVID-19の感染について

56 件の回答

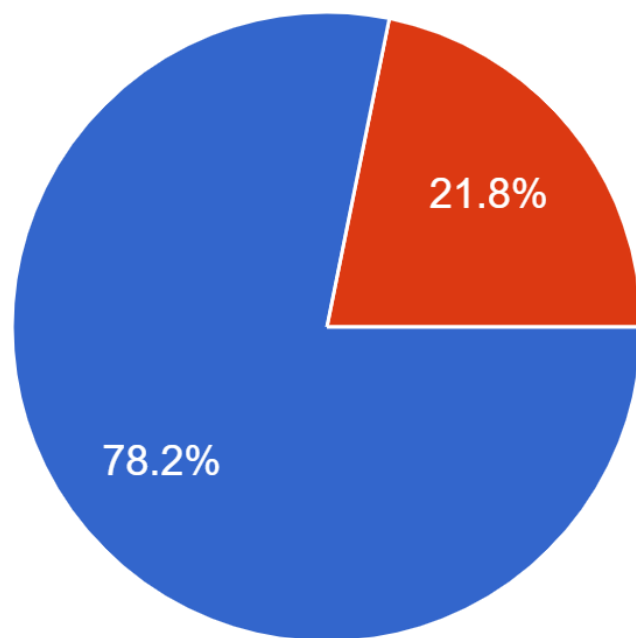


- 自分に感染はない
- 周囲に感染した人がいた（入院患者は除く）
- 濃厚接触はあったが発症はない
- 新型コロナウイルスに感染した

回答数は総会員数の約1割前後ではありましたが、第1回・第2回共に感染したという回答をされる方がいらっしゃらなかったことは幸いでありました。

家庭状況について

55 件の回答



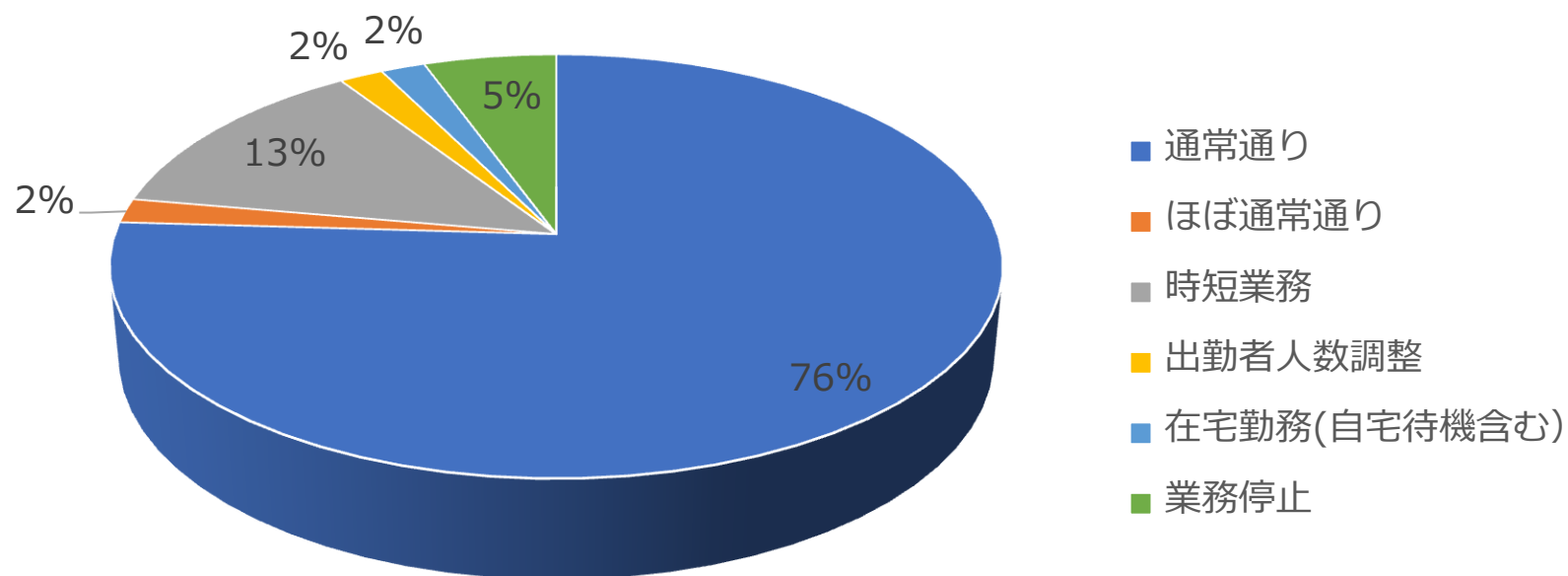
- 平常時と同じ状況
- 平常時とは異なる状況（次の質問にもお答えください）

生活は「通常通り」と答えた方が84%から78%へ若干減少。
仕事にいけないといった回答は少なくなったものの、お子さんの保育や学校に関連して、通常通りの生活とはなっていないとの回答が多くを占めました。

平常時とは、どのように違うか？

- 夫が在宅勤務
- 大学入学したが引っ越しできず自宅にいる
- 小学校がまだ完全ではないので子どもが在宅する時間がまだ
- 子供の保育園から登園自粛要請が出て、早めに仕事を切り上げている。
- 子どもの学校がなく、生活リズムが乱れている。
- 親が仕事に出てしまうので、管理できないが、子供自身で管理できるほど成長していない（中学生）
- 子どもがリモート授業で家にいる
- 在宅勤務、オンラインゲーム授業で家族が在宅
- 学生と会社員の家族が日中家にいる。
- 学校が再開したが、短縮時間で登校日も指定されているため、子供の面倒をみなければならない
- 家族の仕事が減り、収入が減った
- 家族が在宅勤務
- これまでとは考えられないほど家族との生活がある（悪いことではありませんが）

勤務状況について 56件の回答



「通常通りに勤務している」は、前回58%から76%に増加。
「短縮業務をしている」についても、22%から13%へ減少。
「業務停止している」が20%から5%へ減少。
勤務状況としては徐々に通常時の状況に戻ってきている様子ではあります。

感染対策での工夫①

- 1.三密を避けるための換気、ドアや窓の開放 2.ケース終了後の消毒
3.マスクやフェイスシールドの着用 4.ビニールカーテン
- ST室の換気、物品消毒、患者の手指消毒、S T室内での患者のマスク着用
- V Fの制限、誤嚥しにくい食事提供(食物形態、介助量など)
- いわゆる標準的な感染対策を行っています。ただ、STの患者さんのなかにはマスクをつけたりフェイスシールドをつけたりすることに慣れない患者さんたちがいらっしゃるので その都度考えながらやっています。
- コロナ前と違うことは、事務所で常に換気/マスク着用,研修/会議のリモート化,
毎朝の体調確認,自宅からの直行直帰組がいる(今後は状況の変化に応じてもとの業務形態に戻す予定あり)など
- サージカルマスク、フェイスシールドの使用
- シールドやエプロン等の着用、手指消毒の徹底、換気、介入時の立ち位置の工夫 など
- フェイスガードや透明アクリル盤の使用、訓練室の換気や消毒などを行う
- フェイスシールド、病棟担当制
- マスクとメガネを装備します。S T室は窓とドアを開けて換気しながら訓練をしています。
- マスクなどの物資が手に入るようになってきたので、スタンダードプリコーションを徹底するようにしている。
- マスクに加え、ゴーグルを常時着用。
- マスクを外さないとできない訓練を、出来る限り減らしている。
- マスク着用、手指消毒、手洗い、うがい、換気、使用した物品の消毒など

感染対策での工夫②

- リハ室を交代制で拭き掃除(患者ごとに)、フェイスシールドの使用など
- 一般的な感染予防対策を実施。当院独自の工夫は特になし。
- 会議・勉強会はオンラインで対応している
- 外来訓練時間を短縮し20分までとする。訓練時はマスク・ゴーグル・ヘアキャップ・半袖ガウン着用。患者もマスク装着を基本とし、小児患者や構音操作の確認など装着できない場合は、患者がフェイスシールド着用。
- 感染症予防策として公表されている基本対策を、個人でも職場でも毎日実施している。
- 基本的対策と保護者の同意の確認
- 訓練室の除菌、換気、用具の消毒、空間への配慮、利用者およびスタッフの健康管理など。
- 建物、教材等の頻回な消毒、検温、
- 言語聴覚士の業務を積極的にはやらない
- 公共交通機関を利用後は、手洗いする
- 構音器官の運動や摂食訓練時にフェイスシールド、エプロンなど感染予防
- 指導時間をずらす、指導時間を減らす、指導コマ数を減らす、など
- 手洗い消毒、車内消毒、共有物消毒、ガウン・フェイスガード着用
- 所属先の方針に従い、マスクに加え衝立やフェイスシールド着用
- 消毒、換気、フェイスガードの作成、来所者への注意喚起

感染対策での工夫③

- 消毒・手洗い・距離をとる・マスク配布
- 消毒の徹底、利用者への姿勢や距離、
- 正面の対面でのリハを行わない、場合によってフェイスシールドをつけてリハ、時差出勤
- 体調管理の徹底、リスク管理の徹底、他部門との密な連携
- 徹底的な消毒、感染防護、体調管理
- 都度手洗い、消毒、マスク着用、外出の自粛
- 特になし、通常通り
- 入り口から室内消毒、手洗い、マスク
- 飛沫を浴びないようにしている
- 用具などを共有しない。双方の手指消毒、手洗いの励行
- 利用者さんがマスクを外して行うリハビリについては、慎重に実施しています。
- フェイスシールド+マスクが基本として実施しています。
- 嚥下訓練時のPPE,訓練室の換気・清掃

自由記載①

- 気温が高くなってくると袖付エプロンやマスク、アイガードなどで非常に暑さや息苦しさを感じることもある。
- 訓練中もst/患者様の双方にマスク着用が推奨されているが、訓練によっては口型や構音操作の提示が必要な場合があり悩ましい。
- 今週にはいって通勤電車の混み方がすごい。
まだ外出/遠出をする気にはならない.第1波が収束したとは思えない。
- 自主グループのサポートをボランティアでしていたが、開催を後押しして良いものか気になる。
ボランティアの場面では協力者が少なく不安がある。
- 自分自身が罹患していても無症状で勤務し、患者さんを罹患させてしまい重症化してしまうことが不安。
- 消毒の徹底・アクリル板の設置
- 人員不足。自粛解除に伴い施設の出入りの激しさ。
- 第2波でまた業務停止になった場合、年度内に勤務振り替えが出来ず、そのまま収入無しになること。
- 通常利用施設がまだ閉鎖中につき、今月から自宅にて臨床にあたる。
こちらを信頼しての要望であるが、不安はある。

自由記載②

- 病院で実施している検温にリハビリ科スタッフが多く借り出されているが、これはいつまで続くのか、続くとなるとリハビリ業務の縮小につながるため、患者さんに影響が出ている。
- 病院の収益減少のため次年度の新規採用ができない可能性があること。
- 今年度の学生は実習も中止になり、就職難ともなれば何らかの対応が必要になるのでは
- 閉鎖空間で行う聴力測定の実施について、明確な基準がないため学校によって対応が異なっている中で、保護者の意向を確認して実施方法を一部変更して行うことにした。
- 訪問リハビリを自粛されている方に対して、オンラインリハビリを実施した。不安に思うことは、給与について歩合制であるため、今後も流行が来るたびに減収になる可能性があることについて不安がある。
- 本社から通常通りの業務をするように指示されているが、感染防止のための情報や物品の提供がない。
コロナにかかった時の対応があやふや

第1回・第2回のアンケートの変化について

●第1回のアンケートでは、物資の不足をどうするか、臨床での感染防御をどのように行うかなど、感染への直接的な対応について、どう行っていくかということに苦慮されている回答が多かったのが印象でした。第2回のアンケートでは、患者様への対応を十分にできないことへの葛藤や、知らないうちに感染し無症状のまま患者さんへ罹患させてしまうのではないかという不安、十分に検査されないままに肺炎で入院となっている方への臨床対応、訪問リハビリの縮小など、患者さんへの対応が十分にできないという葛藤に悩まれている方が多い印象でした。

●新型コロナウイルスの第2波も懸念されている状況ではありますが、今後を見据えて各職場で対応について改めて取り決めなどをしておく必要があるかと思います。ホームページ上では、各部局で集約した情報や、保障に関する情報なども掲載しておりますので、ご活用いただき、今後の参考としていただければ幸いです。

●まだまだ、見えない脅威との戦いは続きますが、どうか皆様体調に気を付けて、ご自愛下さい。